

「幸せ」のサポーター

木村 美紀

私は、現在、鳥取県米子市にてFPとして活動しております。

●FPとは何か？

そもそもFP（ファイナンシャルプランナー）とは何か、ご存知の無い方もいらっしゃるでしょう。簡単に言えば、FPとは、お金についての相談役です。

もう少し具体的にお話しますと、FPは、ご相談者のライフスタイルや価値観、経済環境を踏まえながら、家族の状況や家計の収支内容、資産（預貯金、有価証券、不動産等）、ローン、保険などのデータを総合的に勘案し、ご相談者が叶えたい夢や希望の実現に向けて、問



発行所

〒204-8555

東京都清瀬市竹丘3-1-30

日本社会事業大学
同 窓 会

電 話 042-496-3053

振替口座 00100-9-42448

ホームページ・アドレス

<http://www.harajukukai.jp/>

卒業後もずっと社大の一員として日本社会事業大学では、卒業生の方々との充実したネットワークを築いています。本学同窓会は、戦前の社会事業研究生、日本社会事業学校研究科・専修科・専門学校、短期大学、学部卒業生、そして大学院の修士生の全員で組織されており、同窓会や大学の歩み、会員の活動などの情報を発信しています。



<http://www.harajukukai.jp>

木村 美紀さん プロフィール

1977年鳥取県米子市生まれ。
2001年に日本社会事業大学卒業後、アメリカンファミリー生命保険会社、株式会社アゼル(マンションディベロッパー)での生命保険および分譲マンションの営業を経験。2007年から株式会社優益FPオフィスにて、大学在学時からFP実務についてアドバイスを頂いていた先輩ファイナンシャルプランナーの下でFP実務を研鑽。その後、2008年夏に独立。2010年から活動拠点を鳥取県米子市に移転。生活の中にlaugh(笑い)のあるライフプランの提案をする意味を込めたラフデッサンを屋号とし、定期刊行誌、新聞社webコラム等の執筆業務、セミナー講師、個人向けFP相談を受けるなど多方面で活躍中。

います。

施設職員から知的障害者に向けられた「こんな（発表会の出し物）で

楽しめて幸せだな」という言葉、寝たきりだけでなく在宅訪問サービスを受けながら家族に囲まれた生活をしている老婦人、話し相手になった時に独居老人が見せた笑顔、等々、社大生活の中で、様々な「幸せ」のカタチやキーワードに触れ、私なりの

福祉観、関わり方を模索しました。

また、社会福祉調査法を履修し、社会福祉への関わり方は、何も施設や行政といった枠に留まらなくてもよいのだということも学びました。

確かに、各人が何に「幸せ」を感じるか、その価値観は十人十色でしょう。しかし、最初から各種セーフティネットの対象となることを「幸せ」の目標

とする方はごく稀だと思えますし、そう信じています。

であるならば、社会福祉を単なる行政サービスといった狭義にとらえず、人が健康に豊かに生きるためのサポートとして広義で考えることで、もつと人の「幸せ」に対して多様な関わり方ができるのではないかと思います。

ちょうどその頃に、各人の「幸せ」の具現化と



●さいごに

日本には「お金は汚いもの」とお金に関心を持つことをはしらないと考える人はまだ多いもの。しかし、FPがアドバイスするのは、単にお金に執着する方法ではなく、各人の「幸せ」の具現化のためのお金の賢い使い方。今後も、多くのご相談者の「幸せ」のサポートをしていきたいと思うので、日々精進していきたいと思っています。

思っています。

同窓生通信 1



飯村 史恵 さん
(学部24期生)

【プロフィール】

- 1年関家ゼミ、2年高沢ゼミ、3・4年仲村ゼミ。
- サークルは劇団ピッポ。2年夏の沢内公演では台風で車中に一泊、同級生がNHKニュースに登場。
- 卒業後、東社協勤務。NPO法人を経て、現在は大学で権利擁護、実習指導等を担当。

私の大学在学中は、世に「竹の子族」が登場した80年代初頭。その華やかさとは対極にあった原宿の一隅で、私たちは夜毎、薄暗く衛生概念の欠如した学生会館で飲み、語り合っていました。先生方にもよくお付き合いいただき、無謀な議論を挑んだり、大学祭では一緒におでんを作ったりしました。思えば、誠に赤面の至りこの上ないことばかりでありました。

改正前の権利擁護相談、福祉サービスマス第三者評価など、全国に先駆けた仕事を数多く担当させていただきました。それぞれの仕事には、おもしろさも困難なことも沢山ありましたが、私は常に杜大ゆかりの多くの方々に支えられ、助けられながら、今日まで歩むことができました。

「相談」の奥深さと常に前向きに勉強を続けていく意義を教えて下さった初めての上司も、私が大学で教えるきっかけを作ってくださった方も共に杜大の卒業生でした。ただの偶然とは思えぬことで、筆舌に尽くせぬ感謝の念を抱いています。

昨年の四月から、私は

縁あって、立教大学に勤務しています。杜大でも

教鞭を執られていた尾崎

新先生の突然のご逝去という思いもかけない事態

にも遭遇しましたが、親子ほど年の離れた学生に

囲まれ、ここでも杜大出身の方々の多大な支援を

受けつつ、自らの幸せに満ちていた大学生活を再び振り返り、学び直しています。

注) 写真は大学卒業式のもの。自分の写真を見るのが嫌で、卒業アルバムを買わなかった私ですが、今となっては二度と撮ることができない一枚です。

同窓生通信 2



松岡 徹藏 さん
(学部14期生)

【プロフィール】

- 大学封鎖の年、1970年入学、1975年卒業。マンドリンアンサンブル、なかよしグループに所属。他にピッポ、野球部の応援団
- 民間施設、横浜市福祉関係職場に勤務
- 現在は畑、果樹、植木、母を相手に奮闘中

私は平成二十一年、退職まで二年を残して横浜市職員を早期退職して故郷の鹿児島県出水市に帰り一人暮らしだった母と同居を始めました。

出水市は最近マスコミを販わしている鶴や養鶏場で鳥インフルエンザが発生して大騒ぎの市です。鶴が一万羽以上越冬に来る位に自然豊かなので自然と共に老後を過ごそうと思っていたのですが、霧島の新燃岳の噴火もあり、自然の美しさ、優しさと共に自然の厳しさを実感させられている今日この頃です。

市を含め、障害関係の仕事が大部分を占めました。が、学生時代に学んだ、石井先生の自閉症児に対する接し方、飯田先生の知的障害児に対する暖かい眼差しの姿勢が少なからず私の障害者に対する接し方(仕事)の基本になったと感謝しています。

また、「なかよしグループ」(障害児自主訓練会)での子ども会活動の体験も障害施設にスムーズに入っていた原点になったと思います。

次に、横浜市での7つの職場全部で職員バンドを結成し、行事などで演奏をした。

最後に最も思い出に残り、今でも私の支えとなっているのは故五味先生をこよなく愛した「四金会」の存在です。この謎の呑んべー集団では、人生を楽しみ、人を楽しませるという極意を学びました。感謝です。

同窓生通信 3



藤崎 信一 さん
(監督 学部13期生)

【プロフィール】

- 1949年 佐賀県佐賀市大和町生
- 県立佐賀北高校卒業
- 東京都武蔵村山市役所
(福祉事務所、社会教育課 児童福祉課等)
- 全日本大学準硬式野球連盟評議員
- 関東地区大学準硬式野球連盟常任理事
- 新関東大学準硬式野球連盟副理事長
- 平成21年3月退職、同年4月より佐賀にて農業を営む。

■「ありがとう」社大野球部」

第三回社大オプザイヤ
ー・社大に貢献したぞー
コンテストで思いもよら
ず理事長特別賞をいただ
きました。スポーツの世
界では、勝てば選手の力、
負ければ監督の責任と言
われます。まさに今回の
受賞は、学生諸君が春・

秋のリーグ戦で二部優勝
してくれた結果であり、
選手に感謝したいと思
います。また創部以来六十
余年の間、部員不足との
戦いの中でしてきたOB
の方々にも感謝したいと
思います。

私の現役当時は、社大・
星葉大・北里大・日獣医
大・日大(理工)・麻布

獣医大の六大でリーグ戦
を行なっていました。入
部した頃は、弱かったの
ですが、四年生の時、後
輩で伊東理昭君(劇団民
芸)が投手として入部し、
準優勝した思い出があり
ます。

昭和五十三年に北里大
学の提案で新関東大学準
硬式野球連盟が設立さ
れ、現在一部六校、二部
五校・三部四校の十五校
で春・秋のリーグ戦を戦
っています。過去には一
部優勝し、四ツ谷の主婦
会館で当時学長であられ
た平田富太郎氏も参加さ
れ盛大に祝勝会を開催し
たこともありました。

最近、二部に甘んじ

ている状態です。卒業以
来、社大野球部に関わら
せていただいたおかげで
さまざまな人との出会い
がありました。私の財産
となっています。又、全
日本・関東の連盟役員も
経験させていただき、国
内遠征・海外遠征等貴重
な体験もいたしました。
本学野球部員の北川・吉
田・山田君がグアムのパ
セオ球場でジャパン・カ
レッジ・オブ・ソーシャ
ルワークと紹介された時
に胸が熱くなったことを
思い出します。すべて社
大野球部のおかげです。
今年も、謙虚な気持ち
と感謝の心で練習に励み、
一部昇格を目指します。

同窓生通信 4



伊藤 博胤 さん
(同窓会 副会長)

【プロフィール】

- 愛媛県新居浜西高校卒業
- 1959年 社大(短大)卒業
- 愛媛県社協・国立伊東重度
障害者センター
- 1962年2月 社大学生課に、
定年まで母校

■原宿から清瀬世代へ

同窓会活動の課題：

母校は清瀬に移り二二
年を迎えた。跡地・原宿
は大きく変貌、トロリー
バスの走っていた明治通
りには、地下鉄・副都心
線が走り、清瀬駅から乗
り換え無しで明治神宮前
まで行ける。

学生や教職員が通った
増田屋、ローリエ、マロン、
玉川寿司なども姿を消し、
中華料理店の天宝は北参
道近くに大きな店舗を構
えた。銭湯や一杯めし屋、
晝屋、東郷女子学生会館
なども何処へやら。
さて、同窓会会員数が
一万四千名を超えた。母
校の歴史を辿る社会事業
研究生・研究科・専門学
校・短大・学部・専修科・

大学院・専門職大学院と、
全卒業生で組織されてい
る。学部の卒業生数は、
清瀬世代が優位となった。
しかし、同窓会活動へ
の参加は原
宿世代にか
なわない。

全国各県に
支部が組織
されている
が、ここで
も若い世代
の積極的な
参加が待た
れている。
母校通信教
育課程の卒
業生にも会
員への呼び
かけも勧め



また、昨年設けた「五
味基金」(故五味百合子
名誉会長の遺贈金)によ
る 1、支部活動支援の
助成金 2、学部新入生
への奨学金(一人五十万
円・給付)なども大いに
活用いただきたい。

てほしい。
同窓会活動の基盤と
なる年会費の納入率が、
若い世代は原宿世代の
ほぼ二分の一に留まる。
活動の充実に向けた理
解と協力を願いたい。



(はじめに)
二〇一〇年九月二十日

長年の念願であった「四国お遍路」にいよいよ旅立つ日。出発直前まで原稿を書き、メールで送る作業。午前十時四十五分妻と一緒に自宅を出発。
リュックには着替え一組、四国遍路に関係する文献、洗面用具、携帯やデジタルカメラの充電器、合羽等の雨具といった最低のものに限定して詰めたつもりでも結構重く、二十キロ弱ある。これに、遍路用具一式を背負うとなると二十キロの荷物を背負ってのたびになりそう。

今年の九月は未だ猛暑が続く、旅は夏用ポロシャツ姿でいいが、十月、十一月の天候も考えて着替えには一応寒さ対策も考えて用意した。遍路宿に浴衣があるのかどうか、宿坊に泊まる際の服装や寝間着はどうするのかも分らず用意したために結構重い。本などでは、着替えも殆どなく、その日着て汗をかいだ着物を宿に着いてから洗濯し、乾燥させて毎日着れば荷物が少なくないが、宿に洗いう人もいたが、宿に洗濯機も乾燥機もあるのだろうか等考えたら荷物が重くなった。なにしろ、予定では一日二十五キロ平均で五十日前後を考

ているので二三日の登出の準備とは異ならざるを得ない。
遍路旅では、バードウオッチングも楽しみたいと考えて双眼鏡もリュックに詰めてみたものの、容量的にも、重さの面でも無理と分かり諦める。

◆羽田発 JAL 1437
便徳島空港行き。

佐知子夫婦及び孫に見送られての出発。
◆「孫たちに発心遍路を見送らる」

夜、丸川先生、日開野先生、佐伯さん、森さん、越智さん、前野さん、影石さん、吉野川市社協の長尾さん、村岡さんが「笹の庄」で壮行会をしてくれる。当分飲めないと言って純米酒を大いに飲む。上勝町に移住されている木谷宜弘先生から秋の季語集の文庫版と俳句吟行用具一式をプレゼントされる。丸川先生や木谷先生からはどんな俳句が出来るか楽しみだと激励とともにプレッシャーをかけられる。俳句に

関心を持つようになったのは、四国地域福祉実践研究セミナーが五年前、愛媛県大洲市で行われた際、正岡子規の出身の愛媛の特色を出そうということから、俳号を有している丸川悦司先生や木谷宜弘先生を選者をお願いして始めた際に、立場上自分も詠まざるを得ないことから詠み始めた以降のことです。素人でもいいところ。でも何か楽しくなりそう。四国地域福祉実践研究セミナーの関係者や

日本地域福祉学会四国支部の関係者から必ず近くにきたら声を掛けて欲しいとのメッセージも頂く。それら関係者と会って懇談出来るのも楽しみ。
明日からどのような生活になるのか分らないが、一九九二年のイギリス留学に比べれば、事前の準備も含めて、かつ当日までの忙しさを考えても、長年の念願であった「四国お遍路」旅を楽しみたいと思う。

四国遍路旅程

【徳島県一阿波・発心の道場】

月日	札所	距離	歩数	時間	天候	気温
9月21日	1~7	13km	25,000	7時間	晴	33℃
9月22日	8~11	22km	30,000	6時間	晴	33℃
9月23日	12	17km	29,000	8時間30分	曇・雷雨・雨	22℃
9月24日	13~17	28km	38,000	9時間	曇	
9月25日	18	20km	28,000	7時間	晴	25℃
9月26日	19	14km	18,000	7時間	晴	26℃
9月27日	20~22	21km	22,000	8時間	曇のち雨	
9月28日	23	30km	41,000	8時間30分	曇のち晴	
9月29日	なし	28km	42,000	8時間	晴	
9月30日			休憩		雨	
		193km	273,000			

【高知県一土佐・修行の道場】

10月1日	なし	27km	37,000	7時間	晴	
10月2日	24~26	26km	36,000	8時間	曇のち晴	
10月3日	なし	25km	34,000	6時間30分	雨のち大雨・雷雨	
10月4日	27	32km	46,000	9時間30分	曇のち晴	
10月5日	28~30	28km	42,000	9時間30分	晴	
10月6日	31~34	25km	41,000	8時間30分	晴	
10月7日	35~36	26km	34,000	7時間30分	晴	
10月8日	なし	30km	38,000	7時間	雨	
10月9日	37	30km	37,000	7時間	雨	
10月10日	なし	31km	44,000	8時間	晴	26℃
10月11日	なし	32km	47,000	8時間	晴	26℃
10月12日	38	42km	57,000	9時間30分	晴	27℃
10月13日	39	31km	45,000	8時間30分	晴	23℃
10月14日	40	28km	42,000	8時間30分	曇のち雨	
		413km	580,000			

【愛媛県一伊予・菩提の道場】

10月15日			休憩(NPO法人なんぐん市場)			
10月16日	なし	25km	37,000	7時間30分	晴	
10月17日	41~42	36km	47,000	9時間	晴	
10月18日	43	36km	49,000	9時間30分	晴	
10月19日	なし	20km	27,000	6時間	晴	
10月20日	44~45	32km	47,000	9時間30分	曇	
10月21日	46	28km	38,000	7時間	雨・濃霧・曇	
10月22日	47~51	13km	21,000	5時間	晴	
10月23日	52~53	12km	20,000	3時間	晴	
10月24日	なし	31km	43,000	8時間30分	曇のち雨	
10月25日	54~58	16km	25,000	6時間	雨	
10月26日	59	27km	37,000	7時間	晴	
10月27日	60~64	25km	38,000	8時間30分	曇のち晴	
10月28日	なし	28km	38,000	7時間	雨のち晴	
10月29日	65	30km	44,000	8時間	晴	
10月30日	66~67	18km	27,000	6時間	雨・濃霧・曇	
		377km	538,000			

【香川県一讃岐・涅槃の道場】

10月31日	60~70	26km	37,000	7時間	曇のち雨	
11月1日	71~76	15km	25,000	7時間	雨のち曇のち晴	
11月2日	77~80	24km	35,000	8時間	曇のち晴	
11月3日	81~83	24km	41,000	8時間	晴	
11月4日	84	15km	23,000	6時間	晴	
11月5日	84~87	20km	30,000	7時間	晴	
11月6日	88	15km	23,000	4時間	晴	
		139km	214,000			

総計 1,122km 1,605,000歩



<http://www.shikoku88.net/study/map/index.php#1>

第四十九日目、 十一月八日 曇り時々雨・霧

高野山では、山口幸照氏の計らいで、大阪社会事業短大の大先輩で、高野山大学の先生をされていた、七十九歳の藤田和正先生が車でケーブル駅に出迎えてくださり、山内を案内してくださった。金剛峯寺及び奥の院の参拝も無事終え、納経帳の一番最初のページに奥の院の納経、最後のページに金剛峯寺の納経を日付入りで頂き、「四国お

遍路の旅」も終了した。歩いたという単なる自己満足かもしれないが、長年の念願であった「通し・歩き遍路」を成し遂げたという成就感と変な高場感が身を包むと同時に、終わってしまった、もっと歩いていたと言ふ寂寥感とが混じった奇妙な感情に囚われた。「お四国病」といわれるのは、こういうことかと納得できた。自分自身、もっと歩いていた、もう一度行きたいと思うわけだから、時間がたつとそれがもつと強くなってくるのかも知れない。



News & Topics

社大ニューストピックス

母校野球部が、春夏二部リーグ連続優勝!!
(春に続き、夏リーグにおいても優勝しました)

日本社会事業大学準硬式野球部は、日頃の練習の成果が発揮され新関東大学準硬式野球連盟の春夏二部リーグ優勝という華々しい成績を上げました。今後とも野球部への応援をよろしくお願いします。

母校卒業生 佐藤弘樹さん秋の褒章を授章

平成22年2月に東京・杉並区の「JR高円寺駅」で自己の危難を顧みず線路に転落した女性を救助した本学社会福祉学部卒業生(49期卒)に秋の褒章、人命を救助した者に授与される「紅綬褒章」を授けました。佐藤さんの授与は最年少ということになりました。

佐藤さんは本学社会福祉学部福祉援助学科を2009年卒業。在学中はラグビー部の主将としてラグビー部をまとめ、現在は本学で勉学してきた児童福祉を活かした児童福祉施設に勤務しています。

御あいさつ

社大の片隅にピッポが誕生してから、今年で四十年目を迎えました。

私たちがここまで活動が続けてこられましたのも、ひとえに、皆様方の暖かい御支援の賜物と部員一同深く感謝いたしております。これからも、「よりよい劇を、より多くの子どもたちに」をモットーに、たくさんの子どもたちに喜んでもらえるような劇づくりに、一層励んでいきたいと思えます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

学生児童劇団『ピッポ』
団員一同



JCSW ネットワークを 広げよう

同窓会支部活動(平成22年9月～)

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、
あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

◇〈長崎県〉から

日 時:平成22年9月11日(土)

場 所:長崎国際大学

内 容:長崎県同窓会及び社会福祉セミナー

テーマ:福祉サービス利用者の権利について

講師他:若穂井透教授、数間文夫(校友室)

◆挨拶する平光
同窓会長長崎県
支部長

◇〈滋賀県〉から

日 時:平成22年10月3日(日)

場 所:滋賀県 ホテルニューオウミ

内 容:滋賀県同窓会

テーマ:滋賀県の地域福祉の経過と現状

講師他:川上雅司支部長

◇〈熊本県〉から

日 時:平成22年11月6日(土)

場 所:熊本県 公徳会カルチャセンター

内 容:熊本県同窓会及び福祉公開講演会

テーマ:子どもの虐待への社会的対応

講師他:高橋重宏 学長、伊藤博胤(同窓会)、
加藤正行(総務部)、畑戸健太郎(企画室)学長講演に加え、教育後援会九州地区の
在学生保護者への相談会が催された。◆同窓会熊本県
支部で講演する
高橋学長

◇〈宮城県〉から

日 時:平成22年12月11日(土)

場 所:東北福祉大学

内 容:宮城県同窓会及び地域福祉フォーラム

テーマ:地域福祉のこれからと担い手としての役割

講師他:大橋謙策前学長

◇〈福島県〉から

日 時:平成22年9月25日(土)

場 所:福島県 バレスの樹

内 容:福島県同窓会及び福祉セミナー

テーマ:認知症ケアのあり方を考える

講師他:今井幸充教授、数間文夫(校友室)

◆同窓会福島県
支部の皆様

◇〈山形県〉から

日 時:平成22年10月23日(土)

場 所:山形県河崎温泉 いしやま旅館

内 容:山形県同窓会

◇〈富山県〉から

日 時:平成22年11月13日(土)

場 所:サンシップとやま

内 容:富山県同窓会および講演

テーマ:障害を持つ人たちとともに守る中山間地
:社大の動向、本部同窓会の活動、他県
支部の状況

講師他:吉田勇次郎(富山)、伊藤博胤(同窓会)

◇〈静岡県〉から

この度4年振り位に平成22年12月18日午
後静岡市内において、母校より平野方紹先生
を招き研修会と懇親会を開催しました。特に今回は静岡県地域ソーシャルワーク関
係団体(社会福祉士・精神保健福祉士・医療
ソーシャルワーカー等)役員と同窓生との合同
で研修会を開催。研修のテーマは「地域包括ケアをめぐるソー
シャルワークの課題と展望」で、参加者(30名)
は多くの示唆を得、その後の懇親会も合同忘
年会として夜おそく迄交流し大変な盛会でした。

◇〈千葉県〉から

日 時:平成22年11月20日(土)

場 所:酒郷吉春

内 容:東葛地区交流会

◇〈80年度生〉

日 時:平成22年11月20日(土)

場 所:クリスティー(原宿竹下通り)

内 容:クラス会

◇〈研究科6期生〉

日 時:平成22年11月30日(火)

場 所:東京ガーデンパレス

内 容:クラス会

元学生寮(松窓寮)管理人の国安さんの
本が出版されました。

元寮生との思い出と今も続く交流は、わたしを支えてく
れています。近くにいる子はときどき顔を出してくれるし、メー
ル、電話、手紙も頻繁にいただきます。寂しいことは少しもあ
りません。彼女たちはブランドもののバッグや貴金属よりも、
なににも代え難いわたしの宝ものです。

(本書「えびろ〜ぐ」より)

青風舎 ☎0120-412-047 2011年2月20日発行



同 窓 会 通 信

同窓生の皆様、お元気でしょうか。今回もホットな
母校・同窓会の出来事をお伝えしていきます。

日本社会事業大学
JAPAN College of Social Work



■同窓会総会を開催

平成22年10月30日(土)13時より日本社会事業大学文京キャンパスに於いて同窓会総会が開催されました。当日は台風の大雨で参加者に影響がありましたが、今回は今年度で退職される、山下英三郎先生、児玉桂子先生と本学卒業生の豊岡敬先生が学習会の講師として、同時開催されました。参加者の多くは学習会にも出席され有意義な会となりました。

また終了後には「同窓会福祉サロン」にて、懇親会が行われ、退職される先生を囲んで社大の思い出や同窓会の活動の話など同窓生の親睦の場となりました。今回の同窓会総会は東京都支部の協力を得、首都圏中心に清瀬世代を対象に開催通知をお知らせしましたが、今後多くの同窓生が気楽に参加できるように同期会単位での参加、職場単位での参加ができるよう

に工夫し年々参加者を増やしていきたいと考えています。

<開催プログラム>

I 総会(今年度の同窓会報告と今後の活動計画)

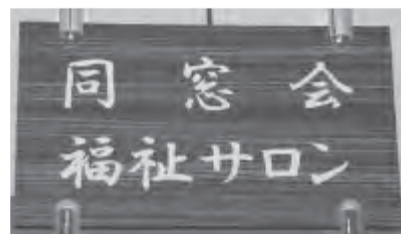
II 学習会

○山下英三郎

○児玉桂子

○豊岡 敬

III 懇親会



同窓会福祉サロンが、交流の場として母校文京キャンパスに平成21年度から設けられました。是非ご利用下さい。



○豊岡 敬 先生 (社会福祉学部14期卒、 都立萩山実務学校長)

テーマ

『児童相談所の現状と課題』

【プロフィール】

昭和45年4月 日本社会事業大学(社会福祉学部)入学

昭和49年3月 日本社会事業大学(社会福祉学部)卒業

昭和49年4月 東京都採用

知的障害児施設・児童養護施設・児童自立支援施設等

平成5年～平成6年 厚生労働省障害福祉専門官

平成 7年4月 東村山ナーシングホーム介護福祉課長

平成15年6月 立川児童相談所長

平成18年7月 足立児童相談所長

平成20年4月 東京都児童相談センター次長

平成22年4月 東京都立萩山実務学校長(現在)



○山下 英三郎 先生 (社会福祉学部教授)

テーマ

『スクールソーシャルワーク』
～これまでとこれから～

【プロフィール】

1946年長崎市生まれ
1980年代半ばから、わが国にスクールソーシャルワークを導入すべく活動してきたが、現在はソーシャルワーク技法のひとつとしての修復的対話の考え方と方法論を普及することに力を入れている。

現在、日本社会事業大学社会福祉学部教授、日本スクールソーシャルワーク協会会長

著書 『いじめ・損なわれた関係を築きなおすー修復的対話というアプローチ』(学苑社,2010年)『相談援助:自らを問い・可能性を感じとる』(学苑社,2006年)その他多数



○児玉 桂子 先生 (社会福祉学部教授)

テーマ

『環境づくり支援プログラムを用いて』認知症高齢者のケアと暮らしの向上を図る ～現場での実践と研究から～

【プロフィール】

東京都老人総合研究所を経て、日本社会事業大学社会福祉学部教授、工学博士。

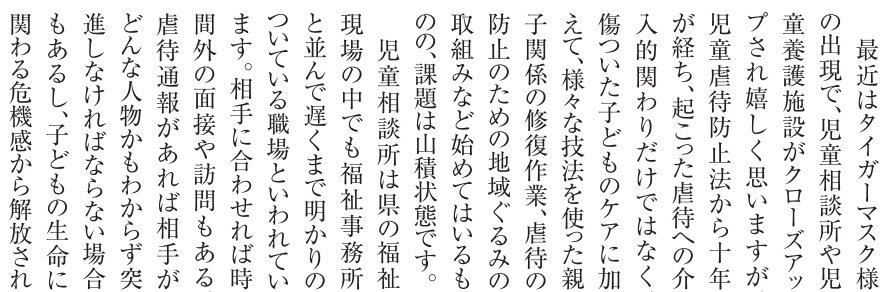
ケアと環境研究会代表。専門は高齢者の居住環境の評価と計画。近年は国内や台湾において、認知症ケア環境づくりに現場の方々と精力的に取り組む。著書は「PEAPにもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル、2010、中央法規」「認知症高齢者が安心できるケア環境づくり、彰国社、2009」「高齢者が自立できる住まいづくり、彰国社、2003」「超高齢社会の福祉居住環境、2008、中央法規」等



(旧姓千住・学部十三期)

行政という枠の中では特に組織的な対応ということをしつかり叩き込まれますが、組織目的をいかに的確かつ効率的に達成するかということが重要です。個々の職員が自分の担当する仕事をきちんと果たすこと、その上に管理するラインの職員が職責に応じた機能を果たすことが健全な組織作りの基本だと思います。

児童相談所では基本的に子どもに関するあらゆる相談を受けています。虐待を含めた養護相談、非行相談、落ち着きがないなどの子どもへの行動に関する相談等がありますが、相談件数の約半分は、障がい相談でそのうちの殆どは知的障がいの判定や相談です。児童虐待対応の最前線でもありますが、市町村、警察、学校などと密接に連携し役割分担をしながら子どもたちの安全確保をし、可能であれば壊れた親子関係の再構築のための支援をしています。虐待通告を受けると緊急受理会議を開き、四十八時間以内に安全確認をしますが、今年度は過去最高の受理件数があり、担当職員は必死に踏ん張っているということです。



それまで思想的な反目があつて寮祭はやらなくなつたと聞いていた男子寮に女子寮代表数名を募つて押しかけ、各部屋を回つて合同寮祭の復活を訴えました。夜中の先生方との団体交渉で補助金をいただき原宿の住民にビラを配り資金集めのバザーへの協力もいただきました。何も無い所からの目的達成で、同じ釜の飯の仲間との絆が深まりました。

A black and white photograph showing a group of about seven young people sitting around a dark table in what appears to be a restaurant or dining hall. They are engaged in conversation and eating. In the foreground, a person with dark hair is seen from the back, looking towards the group. The background shows a wall with some posters or notices. The lighting is somewhat dim, typical of indoor flash photography from that era.